

事後評価シート

調査研究課題名	都市交通における自転車利用のあり方に関する研究
担当者	山田研究調整官、高森前研究官、森山研究官
当初目標と目標達成度	<p>本研究の目標は、環境にやさしい移動手段である自転車に着目し、その利用により期待されるメリット・デメリットや自転車利用促進の主としてソフト施策について、網羅的・総合的に調査し、我が国の利用促進に向けた課題の整理をとおして、都市交通における自転車利用のあり方を検討する際の基礎資料としてまとめることである。本研究では、欧米諸国における先進的な取組みや既往知見等について広範に整理し、また、環境負荷低減効果だけでなく、自転車利用により期待される様々な効果を、利用主体や利用目的の別に応じて整理を行い、さらに利用促進に向けた施策展開時の課題を整理しており、目標を概ね達成することが出来た。</p>
調査研究内容の妥当性	<p>自転車は、その利用に当たり環境負荷が発生せず、さらには近距離移動において優れた移動手段であり、今後、都市交通において大きな役割を担うことが期待される。しかし、行政側が自転車利用に期待している効果は環境負荷低減効果が主である一方、自転車利用者は、個人の効用向上を利用目的としており、今後、利用促進施策を展開するためには、環境負荷低減だけではない効果に着目・配慮した施策検討が重要と考えられる。その点で、自転車利用において期待される効果について広範に整理し、利用促進政策の調査と課題についてまとめた本研究は、今後の利用促進施策検討時の参考資料として有益であると考えられる。</p>
調査研究の仕組みの妥当性	<p>本報告書の執筆にあたり、自転車利用を巡る国内外の事情に詳しく、自転車利用に関する論文博士を保有している古倉宗治（財）土地総合研究所理事に、客員研究官として全面的に協力頂いたことにより、国内外の事例や制度・課題等について広範な情報収集・整理が可能となり、論文として適切に整理することが出来た。</p>
成果と活用（予定）	<p>本報告書により、自転車利用によって期待される広範なメリット・デメリットが明らかとなった。また、諸外国の先進的な制度・取組み等を取りまとめ、自転車利用促進に向けた施策展開の課題等を整理しており、今後、国及び地方公共団体の政策担当者等において、都市交通における自転車利用のあり方を検討する際の基礎的な資料として活用されることが期待される。</p>